

まえがき

書いたものすべてでなく取捨選択してトピックでまとめるというのを今回初めてやってみた。これで「基本文献」が一段と参照しやすくなった。なお『インドネシア語通信 1994』から始まる「インドネシア語学習者にとって読んで面白く実力涵養に役立つ読み物を提供する」活動の今までについては、以下をお読み下さい。[Sg 3.29.2010]

『インドネシア語通信』について

1994 年から私が始めている『インドネシア語通信』について書くお許しを編集委員からいただいた。そこで、どういう趣旨で始めたのか、そんなことを簡単に書いてみたい。

『通信』がどんなものかは、内容見本を三頁分つけたのでご覧頂きたい。こういう 2 段組みの体裁の『インドネシア語通信 1994』(A4 版, 72 頁), 『インドネシア語通信 Sanggar Bahasa Indonesia 1995』(B5 版, 63 頁)の二冊をこれまでにまとめ、今年もほぼ同様の頁数のものを予定している。

編集・刊行は「インドネシア語彙研究会」としてあるが、作業はいっさい私がやっている。この DTP に使用しているハードは、自宅の Macintosh LC III + HP DeskWriter。そしてワープロソフトは、グラフィックを入れやすい Nisus Writer である。

さて、この『通信』を始める背景となっているのは、『世界の辞書』のプロジェクトなど、我が国のインドネシア語辞典について書かなければならない機会が続き、その時にこれまで辞書批判が欠落していることを痛感し、怠慢を反省したことである。

不備の指摘がなされないから、いくら新しい辞書が出ても、旧態依然で昔の辞書の不備を引きずって、改善が見られない。将来のよりよい辞書のためには、現在の辞書の不備を指摘し、新しいデータを公開してゆく活動が継続的に必要である。そう考えたのが、この『通信』を始めるきっかけの

ひとつである。

そういうわけで、若い国語インドネシア語にどんどん導入される新語の意味を調べてそれを紹介する、市販の辞書の古くさを指摘して読者に新しい用例を紹介するなどの項目は、この『通信』のひとつの重要な柱になっている。内容見本にある *kinerja* や *pangsa pasar* などがその系列のものである。

もうひとつは、コンピュータによるテキストの機械処理で得られたデータ（コンコーダンス、インデックス）を手元に幾つか持ったこと。

ここからさまざまな事実が明らかになる。それらは、性質上、論文の形式よりもこういう短い報告で発表するに相応しいものが多い。そういう発表の場が必要だったということも、この『通信』の背景にはある。例えば、*mulai & dimulai* のようなもので、特に『通信 1994』に多い。*kembali* は頻度表から浮かび上がってきたキーワードによる小説の分析だから、むしろ論文向きかもしれない。

以上のようなことからスタートしたこの『通信』は、大半を佐々木 (Sg) が書くにせよ、当初から旅行・留学の経験者に投稿を促しており、*tidak apa-apa*, *air es*, *alah bisa* がその例。また在イの卒業生の寄稿を歓迎している。勿論、佐々木はデスクの責任において、採否を決め、原稿に筆を入れている。

大学時代にインドネシア語を勉強しても、卒業してから何も読むものがない。中国語を例外として、アジアの言語を学んだ場合はみなそんな状況ではなかろうか。『インドネシア語通信』は、その情けないと言えば情けない状況に遅蒔きながら投じる一石。そして将来は、インドネシアやマレーシアの国語研究所のホームページにリンクした『インドネシア語通信オンライン』を開設しよう。とまあ、そんな構想で精進中である。(『東京外大 東南アジア学』第2巻、東京外国語大学東南アジア課程研究室、1996)

『インドネシア語の中庭 1994-1999』 まえがき

本書『インドネシア語の中庭 Sanggar Bahasa Indonesia 1994-1999』は、『インドネシア語通信 1994』と『インドネシア語通信 1995』の DTP に始まり、次いで舞台をオンラインに移して現在のメールマガジン「インドネシア語の中庭」に至る「インドネシア語学習者にとって読んで面白く実力涵養に役立つ読み物を提供する」活動の 1994-1999 年の集大成として、上記『通信』と『Sanggar Bahasa Indonesia 1997』（東京外国語大学語学教育研究協議会）という既刊三書の内容、及びこれまで印刷物になっていなかった 1996, 1998, 1999 年分の内容のすべてを収めた。[Sg 1.31.01]

インドネシア語の「中庭」

いつも楽しく『インドネシア語の中庭』を読んでいます。ところで、ちょっと質問なのですが。タイトルになっている『インドネシア語の中庭』にはどんな思いが込められているのでしょうか？ どうして『中庭』なのかな… とふと、思いまして。

こんな読者メールを頂きました。

実は、パソコン通信の時代、ニフティの「パティオ」という会議室機能サービス（掲示板のようなもの）を利用して、いまココデメールを利用しているのと同じことをほぼ3年間していました。この「パティオ」にアクセスできるのはニフティの会員という制約もあり、登録者数について言えば、30名程度でした。

このココデメールのメールマガジン開設は、調べてみると 1999.2.22。つまり、今日でちょうど丸3年ということになります。イントラネットからインターネットに舞台を移したことにより、登録者も着実に増えて、現在 374名。大学のインドネシア語専攻の入学定員は20名でしたから、これはもうすぐ現役時代19年間分の学生数というわけで、大したものです。

patio : スペイン風中庭, パティオ (inner court); パティオ 《庭の家

寄りに食事・喫茶などのできるようにしたテラス》[Sp.] (リーダーズ英和)

このように「インドネシア語の中庭」は、直接的には、ニフティの「パティオ Sanggar Bahasa Indonesia」を引き継いだものですが、しかし、私がここに密かにダブらせているイメージは、このスペイン風の明るい中庭というより、バリ寺院の jeroan。すなわち：

jeroan: halaman paling hulu di pura: tempat palinggih-palinggih.
(**palinggih:** bangunan tempat kediaman Dewa di pura/ sanggah)

J.Kersten, Bahasa Bali *Tata Bahasa *Kamus Bahasa Lumrah
(Nusa Indah, 1984)

奥の院の前庭といったところでしょうか。

patio (中庭) については、書こう書こうと思いつつ、今まで書いていませんでした。躊躇していたのは、肝心のキーワード patio がインドネシア語に入っていないさうだという点で、例えば、KBBI 第2版にはありません。しかし、こちらもうまい具合に、KBBI 第3版に、**patio:** 1 serambi terbuka di belakang rumah; 2 taman terbuka di dalam rumah と登場して、今やクリア。お陰様で、明日がこのココデメール「中庭」が4周年を迎える Hari Ulang Tahun だという大発見も出来たわけで、絶妙のタイミングだったAさんの上記メールには beribu-ribu terima kasih です。[Sg 2.21.02]

Macky! 中庭 (2002.6.2~2005.6.30)

Nifty のメールマガジン・サービスを利用したマッキー中庭は、6/30 配信 No.199 で終了しました。7月4日の配信から、このまぐまぐ中庭 (2003.3.27~) 一本となっています。

現在、まぐまぐの登録者数は 706。つまり、マッキー中庭の読者 43

0名の 2/3 以上, 300名近くの方に移動していただけたようで, これは予想以上に順調な「教室変更」だったとほっとしています。

ココデメール中庭 (1999.2.22~2002.5.29)

マッキー中庭 (2002.6.2~2005.6.30)

まぐまぐ中庭 (2003.3.27~)

ココデメール以前は, ニフティの有料サービス (確か月500円。誤解された方もいましたが, 金を払わなければならないのは発行者たる私の方で, bukan 読者) を利用していました。

ホームパーティ (1996.12~1997.5, ニフティー会員限定)

パーティオ bipatio (1997.6~1999.2, ニフティー会員限定)

メーリングリスト milis-sanggar (1998.11~1999.2, 会員限定なし)

これより前は「インドネシア語通信」(1994, 1995) の紙の時代。

もしニフティーの「ホームパーティ」以来の読者がいらっしゃるなら, オンライン中庭の最古参の読者ということになります。

さて, このまぐまぐ中庭 (注) がいつまで続くやらですが, 今後ともよろしくおつき合い下さい。[Sg 7.7.05]

(注) 登録読者数 983。バックナンバー「すべて公開」の設定にしており, 2003 年の最初から最新号 2010/03/16 までの7年分すべてがオンラインで読める状態である。[Sg 10.10.2010]

インドネシア語の中庭 文法篇

これまで中庭に書いた文法関係の項をまとめて紙に印刷する Word 原稿 (A5 版のサイズで 200 頁以下) の編集作業にまた手をつけている。書名は『図解インドネシア語文法』も考えたのだが, 頁を繰ってみれば, そううたうほどイラストも多くない。というわけでブログ中庭ノート(2005.10

～) <http://sanggar.exblog.jp/> のロゴもそうなんだし、『鼠は長い尻尾をしている』とすることにした。日本語文法の三上章『象は鼻が長い』(1960年)と張り合おうというわけである。[Sg 11.27.09]

しばらく離れていた作業をまた再開した。書名については、別に書名で売る本ではないのだから『鼠は長い尻尾をしている』なんてのはやめて『インドネシア語の中庭 I』くらいでいい(II, III と続けやすい)という考えに傾いている。[Sg 3.10.2010]

長谷川町子美術館(ここが長谷川作品の著作権管理を行っている)に行ってきた。結論は「学術的だろうがなんだろうが一切許可していない」。というわけで、まことに残念ながら磯野波平氏にグラフィックなかたちで本書に登場願うことは不可となった。[Sg 8.27.2010]

書名を「インドネシア語の中庭 文法篇」とし、また本のサイズを A5 版でなく B6 版とすることにした。[Sg 10.6.2010]

略語: **ACIED**: A Comprehensive Indonesian-English Dictionary, **BIPA**: Bahasa Indonesia untuk Penutur Asing, **KBBI**: Kamus Besar Bahasa Indonesia, **KKM**: Kamus Kecil Mutakhir, **KUBI**: Kamus Umum Bahasa Indonesia. **TBBI**: Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia.

佐々木重次 SASAKI Shigetsugu
shig.sasaki@nifty.com

●ホームページ: Sanggar Bahasa Indonesia

<http://homepage3.nifty.com/sanggar/newpage1.htm>

●メールマガジン: インドネシア語の中庭

<http://homepage3.nifty.com/sanggar/mag/magframe.htm>

●ブログ: 中庭ノート <http://sanggar.exblog.jp/>

目次

まえがきの章

- 『インドネシア語通信』について *iii*
『インドネシア語の中庭 1994-1999』まえがき *v*
インドネシア語の「中庭」 *v*
Macky! 中庭 (2002.6.2~2005.6.30) *vi*
インドネシア語の中庭 文法篇 *vii*

BER- の章

- 円とネズミと波平 --- BER 円体論 *1*
ekor & isteri (尻尾 & 妻) *2*
波平氏と花咲く樹 *3*
belajar & mengajar (学ぶと教える) *4*
holistik (全体論的) *5*
berapa (いくつ) *7*
sepertiga (3分の1) *8*
集合・要素・個数 *8*
bersaudara kandung (実の姉妹関係にある) *9*
接頭辞 BER- の練習問題 *9*
特殊な能動・受動・再帰・相互の BER-動詞 *12*
middle voice (中動態) *13*
Lentera Indonesia (Pusat Bahasa 編 BIPA 初級教材) *15*
Tagalog ma- (タガログ語 ma-, インドネシア語 ber-) *18*
bekerja (どこかに勤めること) *19*
pipi yang tidak bercukur (ひげを剃っていない頬) *20*
bertolak & berangkat (出発する) *20*
berfoto & memfoto/difoto (写真を撮る) *21*
mandi berendam (風呂に入る) *22*
memijak vs berpijak (踏む vs (踏みしめて)立つ) *24*
berhujan-hujan (雨に濡れる) *25*
bertepuk tangan (手を叩く) *26*
berobat mata (目の治療をする) *27*
bertolak belakang (相背反する, 全く正反対である) *28*
berbagi (分かち合う) *28*
diri (自己) *29*

KE-AN の章

被害の KE-AN 動詞 31

bermalam : kemalaman (泊まる : 行き暮れる) 32

kelaparan (飢えに苦しむ) 32

KE-AN 名詞 : 群島と真理 33

アンカーマーク 34

kelihatan, kedengaran (被害と自発) 35

人称代名詞の章

二人称の単数・複数 —— てんでに逃げろ 36

Uncle Sam Wants You 38

tunggal & jamak (単数&複数) 38

Mengapa belum? (どうしてお子さんまだなんですか) 40

kau (二人称単数の人称代名詞) 42

Anda (貴方, お宅) 42

ふたつの WE 45

kami bangsa Indonesia (我々インドネシア民族) 46

ia, -nya, yang —— Linker の話 47

daku - dikau - dia (d- 系の人称代名詞) 50

dirinya (あっさり dia でいいじゃないかと思う dirinya) 51

menembak dirinya (自分を撃つ) 52

ME- の章

矢印を補助線とする ME-派生語論 53

tak mendua (あなた一筋) 53

men-Jakarta (首都ジャカルタに出る, 上京する) 54

menyemut & meroket (蟻と群がる & 勢いよく上昇する) 54

membudaya (文化と化す) 56

merakyat (国民の方を向いている, 国民志向, 庶民的) 57

mengular (1 長蛇の列をなす. 2 蛇行する) 57

TER- の章

meninggi から tertinggi へ 59

tidak terkontrol (コントロールし切れない) 59

menikam (刺した?) 60

buru-buru menolong (あわてて助けた?) 64

telah memberantas (撲滅した?) 65

berkali-kali mendaftar (何回も登録した?) 66

Ia men-download buku (ダウンロードした?) 66
mencapai angka 10 (フルマークに手が届く) 67
termasuk (インドネシア語とマレー語の termasuk) 68
tertelan (呑み込まれた?) 69
tersinggung (感情を害する) 69
TER-動詞の<能動的>構文について 71
マレー語の TER- 重複語幹: perbuatan sia-sia 75
cognitive linguistics (認知言語学) 76
自作のカードケース 77

SE- の章

「1」の接頭辞 SE- 78
英語 as as に相当する SE- 78
昭和 30 年代と setebal ini 80
あなた命の恋 sedalam, setinggi, sebesar, seluas, selamanya 81
semenarik Jakarta (ジャカルタほど魅力的) 82
belum sebesar Soekarno (いまだスカルノほど偉大ではない) 84
sebaiknya (するのがいい) 84
sebesar-besar Pramoedya Ananta Toer (プラムディアがどんなに偉大であつても) 86
sepanjang sejarah (長い歴史を通じて) 87
sesendok pertama (最初の一匙) 88
celana sepinggul (股上の浅いジーンズ) 89
seibu jari (親指大) 90
sepemakan sirih (シリを噛む間) 91
sepenggalah (竿の長さと同じ) 92

重複の章

jangan masuk-masuk (用もないのに入ったりしないの) 93
なきなきもよい方をとるかたみわけ (誹風柳多留) 94
dwiwasana (語末重複) 95
kita-kita (複数人称代名詞の重複) 96
Kecil-kecil cabe rawit (小さくたってキダチトウガラシ) 96
kuda-kuda (似て非なるもの) 97
makan-makan (三度三度の食事でなくその合間になんだかんだ食べたりする) 99
meniru-niru, mengganggu-ganggu (真似したりする, 邪魔したりする)
100

berenang-renang (泳いだりする) 101
mengarang-ngarang (作り話をする) 102
serobot-menyerobot (人を押しのけたり割り込んだりする) 102

発音の章

A-I-U-E-O (母音の唱え方) 105
tegas vs tugas (タガス vs トウガス) 106
bagus (バグース) 107
ba bi be be bo bu (バビブベボブー) 108
p : ph (無気音・有気音の対立) 109
オボヌ, ノホホヌ, トウアヌ 110
Uding, tidak pakai "g" (g なしの Uding, すなわち Udin) 112
menunjuk hidungnya (鼻を指す) 113
wanita (ワニタ) 115
カ° キ° ク° ケ° コ° 116

「は」のある章

象は鼻が長い 117
「何は何は」構文 119
Komputer baru, harganya (新しいパソコンは, 価格は) 121
「何は何が」構文 122
Si Yani sudah tiga anaknya. (ヤニは～がもう三人よ) 123
Barang-barang saya tidak ada yang hilang. (私の荷物は～がなかった)
124
Kemenangannya tak banyak yg menduga. (彼女の勝利は～が多くなか
った) 126
語彙カード時代のカードから 127
インドネシア語の文の核は述語 128
ドリアンです. 130

否定の章

tidak & bukan (ない&ではない) 131
bukan tidak mau (しないというのではない) 132
kan ... (じゃない) 133
kan ... (じゃないですか) 134
Bukan tanganmu, tapi tanganmu (あなたの手じゃないの! あなたの
手!) 135

ME-他動詞の章

- kautembak (menembak の kau-形) 136
w ng l r m y n ny (接頭辞 ME- のうた「我がラーマヤナにゃ」) 137
melihat & Lihat (me-形とゼロ形) 139
aktif dan pasif (能動と受動) 140
Dilihatnya Dewi Sita sedang seorang diri. (シタがひとりで見
た) 141
surat yang kutulis (僕の手紙) 143
Keris diangkatnya tinggi. (短剣をば高くかかげた) 145
語形はどう使い分けられるか 146
ergatif (能格) 153

ku-, kau-, di- の章

- ku-, kau-, di- (ME-他動詞ゼロ形に接頭される agent) 155
di-: 三人称のエージェント 156
di-: 言わずもがな・言うも野暮な agent 156
tapi disimpan sendiri (でも自分の胸に仕舞っています) 157
ditunggu (待たされる?) 159
前景から後景に退いてゆく Agent 160
untuk に続く他動詞の語形 162

したい・されたいの章

- orang yang tidak ingin saya jumpai (私が出会いたくない人物) 164
ingin di- (したいのか されたいのか) 164
ティニがされたいのかトノがしたいのか 165
tidak mau dibantah (口答えされたくない? したくない?) 167
tidak mau kutengok (私には面会に来て欲しくない) 167
rela di- の「したい・されたい」 168
Wanita suka dicium lehernya? (女性は首にキスされるのが好きか) 169

berhasil di- の章

- Kudeta berhasil digagalkan (クーデター成功?) 170
berhasil dipilih (選ばれることに成功) 170
berhak diusir (追い払う権利がある) 171
berusaha di- (すべく努力する) 173
mencoba me- : coba di- 174
jendela yang lupa dikunci (鍵をかけ忘れた窓) 175

dibawa mati の章

- membawa mati (持って死ぬ) 177
ditinggal mandi (中座してマンディに行ってしまう) 178
kau tinggal pergi (あなたは去ってしまった) 180
ditinggal ke (に行っている間に) 181
lupa memanggil (忘れて呼ぶ) 182
terlupa dibawanya (うっかり忘れて身につけている) 183
boneka saja (たかが人形の分際で) 184
Orang yang jasanya besar (功績が大であった人物にして) 185
Makanan sebanyak ini (ご馳走がこんなにたくさんあって) 187
パントウンの構造：掛けと心 188
Ini baru bir. (これでこそビール) 189
Dialah guru saya. (彼こそ私の先生です) 190

「と説明した」 **jelas** の章

- jelas Mendikbud (と教育文化相は説明した) 191
Sangkaku tonggak. (杭だと思った) 192
"...," bantah H (H は～と否定した) 192
membantah (を否定する&と否定する) 195

yang の章

- yang (頻度と用例) 197
yang alam (自然なるもの) 198
yang mahasiswi (女子学生の方) 199
pengarang yang betul-betul pengarang (真に作家である作家) 200
whose 相当と解釈される yang 201
yang aku sendiri me—nya (yang フレーズの中の「私自身」 202
Amir yang pergi. (アミルが行ったんです) 203
dan ban mobil yang digigit (何と車のタイヤを囓ったのでした) 205
Siapa membaca buku? (誰が本を読んでいますか) 206

コト化の **-nya** の章

- nya によるコト化 208
Ada yang dicarinya. vs Yang dicarinya ada. (探し物がある vs 捜していた物があった) 208
であることの結果 209
nominalisasai の -nya 210

追補の章

it の訳し方 214

you の訳し方: anda, kita, di- 215

d. という kelas kata (word class) 216

大野晋『日本語をさかのぼる』(1974) 218